

市民文芸

短歌

令和元年
阿南市春季短歌誌上大会選

市長賞

倉橋寿満子

お四国を一人で巡りしメモの中気力という名の化石拾いぬ

文化振興課長賞

木内 照代

仕切られしベッドの上に過ぐる日々まわりの気配耳に集めて

大会長賞

西田 修身

膝病みて終日テレビ見て暮す然りとて愛し糟糠の妻

中学生の部優秀作品

新野・福井中学校

入選 西川こはる

いつの間に入つて来たのか下駄箱に桜の花びら八つも入つてる

入選

岩倉 遥希

桜咲き木々もいつそう華やかに光輝く春の木洩れ日

入選

国吉 美海

新学期仲間と出会い成長する心も体も大人の階段

入選

山田ちはる

新学期ドキドキしながら授業待ついつのまにか背筋伸びてる

入選

渋谷 奈々

校舎に響いてくるは新しく活発な声新しい仲間

入選

高場 大晃

三日目の通学途中ハプニングチェーンが取れた誰か助けて

入選

谷村茉衣子

新学期気持ち新たにむかえた日勇氣と共に入る教室

入選

湯浅 愛翔

野球部のみんなの絆固ければつながつたような連けいプレー

俳句

阿南市俳句連合会選

断捨離を決めかねてゐる更衣

加藤 和子

群青の空に夕星夕蛙

石井 政子

夏めくや古紙回収の紐十字

久米 千草

夕さりて耀ふ川辺春闌けり

平 イチ子

燕の子郵便受へ初飛行

浜田百合子

青葉山トンネル出れば薬王寺

水口 明美

山と山つないで清流鯉幟

寿田 淳乃

誘はれて地引網ひく浜五月

田中 栄子

天を突く風車ゆるりと聖五月

五光 春海

名優も共に老いたり昭和の日

岡久 玲子

川柳

阿南川柳会 鈴木レイ子 選

目覚ましが今日の予定を急ぎ立てる

橋本 征介

拾つたら言葉の裏に棘がある

二階千代美

長老と煽てに乗つた床の前

野口 吾朗

同窓会バアになつても女の子
目が合つて恋の炎が燃えさかる
情熱に応える野菜味がある

西田 修身
多田紀久代
持木 寿栄

一般応募

しくじりも笑いで老いをみな許す

島尾美津子

三本の足音がして婆がくる

武田 敏子

絶世の美女にはなれぬ小さな目

仁井 信子

心地良い心編み込む布ぞうり

吉田 當代

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

平成の天皇后を頌う

井関喜久子

昭和華燭最良縁 昭和の華燭 最も良縁
在位卅年偕老天 在位卅年 偕老の天

常共國民喜憂事 常に國民と共にす 喜憂の事

慈顔尋難溢情憐 慈顔難を尋ねて 情憐に溢る

名勝旧古河亭薔薇園

黄紅紫白競嬋妍 黄紅 紫白 嬋妍を競い
洋館豪壯容凜然 洋館の豪壯 容 凜然たり
観客萬來溢園裏 観客 万来 園裏に溢れ
芳香嗅盡夏初天 芳香 嗅ぎ尽す 夏初の天

旧古河亭：旧古河庭園。東京都北区にある国指定名勝。
元は陸奥宗光の邸園。

市田 嘉則

禪庭藤架紫雲垂 禪庭の藤架 紫雲垂れ
香動作塵風度時 香動き塵と作る風度る時
孟夏爽然新翠滴 孟夏 爽然 新翠滴り
成陰午榻睡猫兒 陰を成す午榻 猫兒睡る

初夏偶吟 增喜 泰典

禪庭の藤架 紫雲垂れ
香動き塵と作る風度る時
孟夏 爽然 新翠滴り
陰を成す午榻 猫兒睡る

禪庭の藤架 紫雲垂れ
香動き塵と作る風度る時
孟夏 爽然 新翠滴り
陰を成す午榻 猫兒睡る

禪庭の藤架 紫雲垂れ
香動き塵と作る風度る時
孟夏 爽然 新翠滴り
陰を成す午榻 猫兒睡る

禪庭の藤架 紫雲垂れ
香動き塵と作る風度る時
孟夏 爽然 新翠滴り
陰を成す午榻 猫兒睡る

禪庭の藤架 紫雲垂れ
香動き塵と作る風度る時
孟夏 爽然 新翠滴り
陰を成す午榻 猫兒睡る